

チャレンジ学級	「単元名」	Lets Try 1	Unit1	Hello!
			Unit2	How are you?
			Unit4	I like blue.

1. 授業の実践記録

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

【具体的な工夫】

継続的な授業内容により、児童が主体的なコミュニケーション活動に取り組むための安心感を保障した。また、児童の「やってみたい!」と思えるような時事を意識した教材を準備した。

色を伝えたい

- ・楽しそうな表情やオーバーリアクションをする教師のデモンストレーションを見せた。
- ・耳から聴くのが苦手な児童のため、言葉だけでなく、視覚的にも安心できる環境の整備として、見て分かるようなカードを準備した。



(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

【具体的な工夫】

学習に集中できるようなメンバーを教師が事前に考えておいた。仲のよい人や話を静かに聴ける高学年を各グループに配置した。こうして構成したメンバーとのグループ活動を積極的に取り入れたことで、相手意識をもった活動となるように工夫した。

ねえきいてきて

- ・自分の思いを安心して伝えられる環境として、メンバー構成を工夫した。



(3) 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実現するための工夫（仮説3）

【具体的な工夫】

静止しているのが苦手な児童のために座学よりも動きのある活動を多く行った。ALT と一人ずつ行う挨拶と色の学習は、継続的な内容として、1年を通して行った。



年間を通して一人ずつ ALT
との挨拶を楽しんでいます。

2. 指導の結果と考察 ○成果 ●課題

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

○授業の度に同じやりとりを ALT と継続することで、新しいことが苦手な児童でも安心してコミュニケーション活動に取り組むことができるようになった。

●継続した学習内容を意識するあまり、学習することができる単元数が限られる。児童や学年によっては、発達段階や能力に合っていない場合もある。

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

○教師側の意図的なグループの作成により、自分の思いや考えを進んで発表することができた。

●個々の特性上、相手意識をもちながら活動することには、難しさも見られた。

(3) 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実現するための工夫（仮説3）

○黒板の挨拶カードとともに、毎回同じように挨拶表現をしたことで、英語に慣れ親しみ、児童自ら伝えようとする姿が見られた。

○全員が大好きな ALT との挨拶がマンツーマンできることで、伝えようとする意欲につながった。

●学年による差もあり、英語で伝えるのが難しい場面もあった。